

100周年記念シンポジウム 「山での突然死を考える」講演会報告

医療委員会 野口 いづみ

医療委員会は、2005年1月20日に東京体育館において、シンポジウム「山での突然死を考える—その具体例と防ぎ方—」(世話人：野口いづみ、貫田宗男)を開催した。

中高年登山者の増加に伴い、身近に登山中の突然死に遭遇する機会もまれではなくなった。

前半は国内外の突然死の具体例を示し、回答者の医師がコメントをし、後半は突然死の防ぎ方の講演をした。

会場では、日本山岳会の会員内外の150名近い参加者が熱心に耳を傾け、登山医学への関心の高さを反映していた。

また、多くのマスメディアを通して報告された。

なお、事前募集で満席となり、参加をお断りした方々には心苦しく思っており、次の講演会開催のときには、ぜひ参加いただきたいと考えている次第である。



2005 年 (平成 17 年)
4 月号 (No. 719)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目 次

100周年記念シンポジウム 「山での突然死を考える」 講演会報告……………	1
100周年ニュース……………	4
100周年記念トレッキング……………	5
100歳の中村テルさんに聞く……………	6
シュラギントワイトの本と 藤島さんのこと……………	7
報告……………	8
総務・支部事務局担当者会議 ／学生部・アイスクライミング 講習会ハケ岳にて開催／アル パインスケッチクラブ・第 14回山好きの山の絵展 東西南北……………	10
年越しは山研で 図書紹介……………	11
会務報告……………	13
INFORMATION……………	15
ルーム日誌……………	15

▶ 日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木…………… 10～20時
水・金…………… 13～20時
第2、第4土曜日…………… 閉室
第1、第3、第5土曜日…………… 10～18時

突然死とは

講演は、増山茂氏による、突然死の概要の説明から開始された。「突然死」とは、「発症から24時間以内の予期しない内因性死亡」とされる。

突然死の原因は急性心筋梗塞や不整脈などの心疾患が最も多く66%、脳血管障害が14%、大動脈の破裂8% (統計によつては心臓病53%、脳卒中35%) と、循環器系の病気が多い。リスクファクターは高年齢、男性(女性の2倍)、高血圧、高尿酸値、肥満、低コレステロール、心疾患、ヘビースモーカーなどであるという。

また、運動中の突然死として国内で登山は第5位、6%をしめるが、スイスにおけるスキーヤーの突然死の症例数は約5倍あり、日

本でも増加する可能性がある。

次に、堀井昌子氏が、現在、登山者の70%以上が中高年者であることと、最近、10年間で遭難者数は2倍になったが、中高年はその75%をしめ、死者・行方不明者にいたつては93%をしめている現状を示した。

遭難の原因として病気は5位であり、突然死と考えられるものが多い。また、ヒマラヤでの死亡事故は、1980年代は中高年者のしめる割合は7%弱だったが、1990年代は38%と高い数値を示しており、高齢者が高峰に登っていることを反映している。運動中の突然死は85%が男性で、病気を持っている者は27%のみであった。

国内症例について

続いて、堀井氏は国内突然死6



熱心に耳を傾ける参加者

症例を提示し、内藤広郎氏（消化器外科医）、橋本しをり氏（神経内科医）、上小牧憲寛氏（循環内科医）が、それぞれ専門の立場から死亡の原因についてコメントした。

1 例目は、65歳の男性で、丹沢を登山中、2回目の休憩後、10分ほど歩いて崩れるように倒れ、意識消失、死亡したという症例であった。内藤氏は「下痢などの脱水がからんでいたのでは」、橋本氏は「崩れるように倒れ、ドロップアタックを起しているので脳幹部の梗塞が考えられるが、不整脈もありうる」、上小牧氏は「定期健診

で異常を指摘されていなくとも心筋梗塞の可能性がある」と答えた。検死で脳梗塞と診断されたという。また、55歳の男性で、沢登りでビバークの翌朝、行動開始直後に倒れたという症例では、身動きがままならない体位で長時間過ごした後の肺塞栓症、いわゆるロングフライト症候群（エコノミークラス症候群）または急性心不全が疑われるということだった。

さらに、60歳の狭心症のある男性で、前夜深酒し、翌朝、睡眠不足のまま出発し、2ピッチ後に急性心筋梗塞にて死亡した症例もあった。飲酒は脱水をもたらすので、前夜の深酒は禁忌である。

最後は、67歳の男性で、高血圧、尿酸血症で通院中であつた。分水嶺登山で最後尾を歩いていたが、山頂に來ないのを心配した仲間が戻って、倒れているのを発見した。ヘリで搬送されたが、死亡が確認、急性心不全と診断されたという。

6件を総括すると、死因は、脳梗塞と急性心不全が各1例、急性心筋梗塞が3例で、不明1例であつた。全員男性で55歳以上、既往歴については、ないと判明していた者は1名で、不明が2名、高血

圧症が2名、狭心症、高尿酸血症が各1名であつた。1例を除いて、午前中に発症したことが特筆され、午前中が要注意であることが指摘された。

堀井氏は最後に、中高年登山者はメディカルチェックが必須であることを強調し、潜在的基礎疾患が顕在化する誘因である「睡眠時間が短い、不規則」、「身体活動時間の過剰」、「ストレス」などを避ける配慮が必要であると述べた。

海外高所症例

海外高所症例については、最初にコメンテーターとしてガイドの近藤謙司氏が、昨年5月にエヴェレスト登頂後にセカンドステップ（8600m）を懸垂下降中に転倒し、突然死した63歳の女性の例を提示した。原因は不明とされている。

続いて増山氏が海外高所7症例を提示した。回答者は、神尾重則氏（胸部外科医）、塩田純一氏（神経内科医）、志賀尚子氏（救急医療医）が担当した。

1 例目は40歳代の男性、前日、強い頭痛があり、翌朝、エヴェレストBC（5300m）にて、口から泡を吐いて死亡しているのが

発見されたという。神尾氏は「肺水腫か、頭痛があるのでクモ膜下出血」、塩田氏は「頭痛の後、急死しておりクモ膜下出血」、志賀氏は「高所での頭痛がクモ膜下出血か判断がむずかしく、心筋梗塞も否定できない」との回答があつた。浜口欣一氏による剖検の結果、クモ膜下出血であつたという。

キリマンジャロの2例も提示された。2名とも4700mの小屋までは元気だったが、山頂へのアタック時に突然死した例であつた。60歳代後半の男性は、午前1時に山頂に向かったが、遅れ始め、200m登った所で「少し休みたい」と言つてすわりこんで、そのまま倒れて死亡した。60歳代の女性は午前0時に山頂へ向かったが、その30分後、突然前に転倒して歩行困難となり、小屋に運びおろしたのが死亡した。さらに、60歳代の男性はアコンカグア山頂からの下山開始直後に背中への痛みを訴え、30分後に歩行困難になり、続いて意識消失、心拍停止をきたし、死亡した。

これらの3症例では回答者のコメントと現地で示された診断が食い違っていたことから、現地で剖

検に基づいて死因とされたものは必ずしも正確なものではない可能性が考えられた。

最後の症例は、60歳代の女性で、ヒマヤトレッキング中であつた。SpO₂値(動脈血酸素化のレベル)が4000mlを越えてから、

一人かけ離れて低下していた。下肢静脈瘤があり、足が何度もつづいてた。BC(4900ml)到着3日後に本隊はメラピークへアタックしたが、本人はBCに残っていた。起床後、胸部痛を訴え、その1時間後、シュラフに入ったまま死亡しているのを発見された。回答者は全員肺塞栓とし、診断とも一致した。

増山氏は、高所における特殊な因子である「低酸素・低体温・脱水・低血糖」が背景にあること、さらに突然死には「急激な交感神経系の亢進、脱水、寒冷、凝固線溶系の変化」が関与している可能性があり、特殊な環境であり、別な対処を考える必要があると述べた。

突然死を防止するためには

最後は、高山守正氏(心臓救急医)が、突然死について、豊富な資料を駆使して講演を行った。突然死は、日本では1年間で100

0人に一人起こるが、欧米ではこの2倍である。登山者では2・3人と考えられる。発症後1時間以内に死亡する場合は90%近くが急性心筋梗塞を代表とする心臓病である。寒い時期と、朝と夜の8時頃に多い。

心臓突然死の3分の2は心室細動(心臓がこまかく震えるだけの最悪の不整脈)によって生じ、早期に電気ショック(除細動)をすることが必要である。電気ショックをかけることが1分遅れるごとに成功率は7・10%ずつ低下する。最近では小型の自動除細動器が普及し、一般人にも使用できるようになった。医療の進歩によって、病院での死亡率は8割程度になったが、35%の者が病院到着前に死亡している。日本では心拍停止例の社会復帰率は2・3割と欧米に比べて低い。心肺停止が起こったら、応援を集め、人工呼吸と心臓マッサージをして、電気ショックをかけて、専門的治療につなげることである。

山で胸が痛く苦しんでいる人の対処法は、応急処置(安静、保温、酸素を吸わせる、ニトロ剤を1錠舌下に投与して、アスピリンを嚙

ませるなど)をして、ヘリを呼んで搬送する。脇にいる人(バイスタンダー)が蘇生法を行うことが大切なので、心肺蘇生法を会得することが必要である。

登山中は運動、発汗、食事の変化、寒冷、不眠など、平常とは異なる状態におかれており、血圧の上昇も顕著なので注意が必要である。実際、山中で心肺停止が起こった場合には救命は難しいので、起こさないようにする事がもっとも大事であり、原因疾患の治療と生活習慣病のコントロールをすることが必要である。心臓突然死を起こしやすい人には心疾患が見られる場合が多く、検査によるハイリスク群の同定が必要である。

最後に高山氏は突然死を防止するために、「定期的な健康診断を受ける」、「担当医と良いコミュニケーションをもつ」、「体力や健康度に見合った計画」、「日頃の運動」、「必要な薬の服用」などに注意して、自己管理することも重要であると述べた。登山に際しては、「無理をしない」、「引き返す勇氣を持つ」、「内服薬を忘れない」、「脱水と塩分過多に注意する」、「いつもの体調と比較する」ことが必要であ

るとして、講演を終了した。

さらに、会場の大森薫雄氏が、「山で起こっても仕方がないと理解している。アドバイスをきいて注意して登ってほしいが、登らないほうがよい場合もある。メディカルチェックで自分の体を認識し、マイペースで登ることが重要。いろいろな立場で山を楽しんでほしい」という発言をした。

次回シンポジウム開催予定

講演会後のアンケートは好評であり、講演会を続けて行つてほしいという希望も多かった。

今回のテーマ以外には、救急蘇生法、高山病、トレーニング法などに関心があると考えられた。

医療委員会のHPへのアクセス件数は1日平均100件を越え、登山医学への関心の高まりが感じられる。

現在、医療委員会では「登山の救急医療ハンドブック」を作成中であり、これらの声も反映させた内容とした。

また、出版記念を兼ねて100周年記念シンポジウム続編として「山での救急蘇生を考える」を7月4日に開催することとした。ひき続き参加いただきたい。

「ブロック別式典開催のお知らせ」

式典委員会

日本山岳会創立100周年を記念して、10月15日に東京において総合式典が開催されるのに併せて、全国を8つのブロックに分けて式典及び記念山行が実施される。

各ブロックに属する会員はもとより、首都圏及び他ブロックの会員の参加も期待されているので、全国各地から奮って参加されたい。

各ブロックの開催要領を2回に分けて（〔その1〕東北、京岐北陸、九州、北海道）（〔その2〕フォッサマグナ、中国、東海、関西）紹介する。各項目の数字は、①第1日開催日時、②場所、③内容、④第2日山行、⑤参加費、⑥申込先氏名、⑦住所、⑧FAX、⑨E-mail、⑩申込〆切日をあらわす。

申込みは文書で、郵送、FAXまたはE-mailで行うこと。

〔その1〕

●東北ブロック式典（青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島各支部）

- ① 5月28日(土) 14:00～
- ② 福島県猪苗代町「ホテルリステル猪苗代」
- ③ 式典及び講演 尾形好雄氏
- ④ 磐梯山、猫魔山、雄国沼登山、裏磐梯周遊
- ⑤ 18,000円
- ⑥ 事務局 八巻和男
- ⑦ 〒960-8252 福島市御山字田中55-7
- ⑧ 024-535-1059
- ⑨ なし
- ⑩ 4月30日(土)

●京岐北陸ブロック式典（京都、岐阜、福井、石川、富山各支部）

- ① 6月11日(土) 14:00～
- ② 福井市福井まちなか文化施設「響のホール」
宿泊：ユアーズホテル
- ③ 式典及び講演 立松和平氏「100霊峰を歩いて」
- ④ 越知山登山（立松氏同行）
- ⑤ 式典・祝賀参加 10,000円
宿泊の場合 22,000円
- ⑥ 支部長 宮本数男
- ⑦ 〒910-0011 福井市経田1-802
- ⑧ 0776-21-1215
- ⑨ なし
- ⑩ 5月10日(火)

●九州ブロック式典（福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎各支部）

- ① 7月16日(土) 14:00～

- ② 宮崎県営国民宿舎「えびの高原荘」
- ③ 式典、各支部報告、講演 石井久夫氏「霧島の自然」
- ④ 霧島縦走、韓国岳、大浪池、池めぐり
- ⑤ 15,000円
- ⑥ 支部長 井野元繁
- ⑦ 〒880-0911 宮崎市田吉1077-1
- ⑧ 0985-54-3828
- ⑨ sinomoto@miyazaki-catv.ne.jp
- ⑩ 5月31日(火)

●北海道ブロック式典（北海道支部）

- ① 8月26日(金) 18:00～
- ② 札幌市「アパホテル札幌」
- ③ 式典及び講演
- ④ 由仁町クオベツ山稜無名峠、ヤブ漕ぎ体験
- ⑤ 5,000円、宿泊費別 7,000円
- ⑥ 事務局 長谷川雄助
- ⑦ 〒060-0807 札幌市北区北七条西6 キタノビル内
(株)北斗警備 気付
- ⑧ 011-738-8212
- ⑨ upepe_sankejp@yahoo.co.jp
- ⑩ 7月31日(日)

〔その2〕

4ブロックの開催日程は次の通り。

- フォッサマグナブロック 05年9月17～18日
- 中国ブロック 05年9月17～18日
- 東海ブロック 05年10月29～30日
- 関西ブロック 05年11月5～6日

*参加を希望される方はご予約下さい。

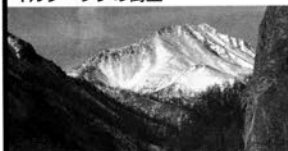
日本山岳会創立100周年記念企画 「日本人の足跡を訪ねて」

(株)ウェック・トレック 電話:03-3437-8848

サヤン山脈最高峰登頂とバイカル湖 11日間



イルクーツクの街並



ムンク・サルティン峰

【ツアーのポイント】

1782年、大黒屋光大夫が江戸への航海途中で遭難し、長期滞在したイルクーツクやシベリアの真珠と謳われるバイカル湖を訪れます。シベリア・サヤン山脈の最高峰ムンク・サルティン峰(3,491m)に登頂。周辺は特別自然保護区となっており、鳥類、野生動物の宝庫です。

期間 2005年 6月24日(金)～7月4日(月)

費用 438,000円 <新潟発着>

旅行条件

●利用予定航空会社:ダリア航空、バイカル航空など ●ツアーリーダー:新潟から新潟まで同行 ●最少催行人員:10名 ●食事:朝10回・昼9回・夕9回 ●1人部屋追加料金:46,000円(ホテル、ロッジ泊のみ7泊) ●利用予定ホテル:中級クラス

その他のツアー

シルクロードと天山ヘリハイキング
7月12日～7月23日 12日間

チョー・オユーBCとナンパバ越え
9月25日～10月13日 19日間

アルパインツアーサービス(株) 電話:03-3503-1911

カナディアン・ロッキー花と氷河の山旅 9日間



【ツアーのポイント】

1925年、日本最初の海外登山隊(横有恒隊長)が初登頂したロッキー屈指の難峰アルバータをヘリで空から眺望。レイクルイズのフェアビュー登頂やロブソン山麓ハイキングなど、各地に連泊しながらロッキーを南北に縦断する充実企画。カナダ山岳会の訪問と交流も。

期間 2005年 7月16日(土)～7月24日(日)

費用 528,000円 <東京・大阪・名古屋発着>

旅行条件

●利用予定航空会社:エアカナダ ●ツアーリーダー:成田から成田まで同行 ●最少催行人員:10名 ●食事:朝7回・昼6回・夕7回 ●1人部屋利用追加料金:78,000円 ●利用予定ホテル:中・高級クラス

その他のツアー

マナスル初登頂の足跡トレッキング
10月25日発 10日間

河口慧海の足跡Aコース9月14日発
Bコース10月18日発

ヒマラヤ観光開発(株) 電話:03-3574-9292

エベレスト街道 シェルパの里 9日間



【ツアーのポイント】

ネパールのトレッキングでも最もポピュラーなコースを往路はゆっくり歩き、帰路はチャーターヘリコプターで戻ります。シャンボチエでの滞在は、当社所有の「ホテル・エベレスト・ビュー」で贅沢な一時をお過ごし下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

期間 2005年 10月4日(火)～10月12日(水)

費用 333,000円 <東京・大阪発着>

旅行条件

●利用予定航空会社:キャセイ航空、ロイヤルネパール航空、全日空など ●ツアーリーダー:同行致します ●最少催行人員:10名 ●食事:朝7回・昼5回・夕7回 ●1人部屋追加料金:26,000円(ホテル・エベレスト・ビューは相部屋利用) ●利用ホテル:ホテル・ヒマラヤ

その他のツアー

9月23日発 チョモランマBC探訪と南面からのエベレスト展望20日間
詳しくは、お問合せ下さい。

(株)アトラストレック 電話:03-3341-0030

アルプス三つの北壁と日本山岳会の足跡を辿る 11日間



マッターホルン北壁



「マキ」からアイガー・東山稜

【ツアーのポイント】

日本山岳会第4代会長・横有恒氏が1921年に成功した「アイガー・東山稜の初登攀」をはじめ、日本山岳会会員がアルプスに残した足跡を辿ります。いわゆる三大北壁を訪ねるトレイルだけでなく、登頂を目指す方にも登頂プランをご用意しております。

期間 2005年 7月18日(月)～7月28日(木)

費用 480,000円 <東京・大阪発着>

旅行条件

●利用予定航空会社:スイス、ルフトハンザ航空等 ●ツアーリーダー:現地到着空港から現地出発空港まで同行 ●最少催行人員:10名 ●食事:朝9回・昼0回・夕6回 ●1人部屋追加料金65,000円(山小屋を除く) ●利用予定ホテル:各地三ツ星以上のホテル

その他のツアー

アイガー・東山稜登山と日本山岳会の足跡を訪ねる
7月13日発 10日間

訪問取材報告

100歳の中村テルさんに聞く

資料・映像委員会 奈良 千佐子

■全身全霊で挑んだ山

奇しくも、日本山岳会と同じ100歳の中村テルは、女性会員の最高齢であり、黎明期の女性登山史を拓いてきた人である。大正8年(1919年)15歳頃、鉾山業を営む父と共に山に入ったのが山との出会いであった。

大正から昭和初期といえば、女性性が山登りをするのは本当にめずらしく、登山靴もない時代。登山の格好といえば、テーラードカラーの上着にブルマー、ゲートルにわらじという姿である。氷の上を歩く時は、「かなかんじき」という3本の鉄の爪をわらじに縛りつけて、靴下の中には唐辛子を入れる。汗をかくとポカポカして温かくなるのだという。若かりし日を、記憶の奥で回想し、「お転婆が過ぎただけの事ね」と、さらりと言う。だが、そのお転婆な乙女は、1923年、女性初、冬の富士山登頂をはたし、世間を(アッ!)と

驚かせたのである。

「冬山というのは雪との闘い、胸まで雪を抱いて3歩登ったと思うとズルズルッと2歩下がる、また3歩登って2歩下がり……。頂上を極めることなんか本当は問題じゃない。その山にとつついて、全身全霊を込めてやってみるっていうのが好きだった」と語る。

■日本NZ女子親善隊

戦前、得意の英語をアピールし日本フォード社に勤務、戦後はGHQ秘書、同時通訳として活躍。その英語力はずば抜けて優秀。

61年、国を代表する親善使節として、日本NZ女子親善隊の隊長を務め、NZに日本旋風を巻き起こし話題になった。

隊長であったテルは、娘ほど年の違う隊員に、英語や、外国でのマナーをどしどし教育した。

「すべてのことレディライクにふるまう。それが作法のエッセンスです」と、駆使して作成した行儀



ヒラリー卿を囲む日本NZ女子親善隊
(前列左から2人目が中村テル)

教書を隊員は「憲法」と呼んだ。

「いちいちうるさい事を言うから、オニババと呼ばれて……でも楽しい思い出ね」と笑う。

その「憲法」配布における苦労話とレディの心意気が、次の著書に記されているので紹介したい。ユーモアと弾むようなエッセイに、筆者は思わず笑ってしまった。

著書「女5人NZを行く」より

■隊長は語る―「憲法」裏話

私も国を代表する第一級レディとして振舞わざるをえない。まさか、スウスイ音を出してスーブを吸うわけにもゆかない。大学は出たけれど、外国の習慣と礼儀に弱い隊員になんと説明し、教え

るべきか。社会人の彼女達のプライドを傷つけず、レディライクの第一級のマナーを教えなくては、日本人は野蛮と見下される。

語学ができなくともよい、マナース(お行儀)がよければいい。胴長の脚短かで、彎曲して、鼻ぺチャの色黒であっても、真心があれば、誰でも私どもを好ましい友だちと思ってくれる。隊員たちの、あのお行儀では、日本のレディの格がさがる。隊員たちよ、怒るなかれ。もつと言いたいが、主なことだけをざっと一通りだけ書いてみる。

若い娘は、まことに素直。私の行儀教書をそのまま受け入れ、それを「憲法」と呼んでいる。めでたし、めでたし。(敬称略)

【平成16年3月31日に行われた湘南記念病院でのインタビュー記録を元に編集(日本NZ女子親善隊のメンバーであった小倉董子会員にインタビュアーとしてご尽力をいただきました)】

■中村テル 1904年生まれ。23年、女性初の冬富士登頂、61年、日本NZ女子親善隊長、88年、日本山岳会婦人部インドヒマラヤ・マウンテンシーヴァ遠征隊参加。

シュラギントワイトの本と 藤島さんのこと

山本 健一郎

会報715号で水野さんが報告され、717号の平山会長挨拶にもあった様に、会員松崎中正さんがシュラギントワイトの報告書の別巻を、当会創立100周年の記念にご寄贈くださった。

先日、固唾を呑んで見守るなか松田雄一さんの手で取り出されたリトグラフは保存が素晴らしく良く、思わず息を飲む鮮やかな色彩を保っていた。1番上に薄葉紙が1枚載せてあり、そこに13/289とあった。この本が日本に渡来したのは恐らく6組、そのうち明治41年丸善の火災と、当会図書室の罹災で2組が失われた。日本に現存するのは国会図書館(深田久弥氏から)、信州大学(小林義正氏から)小谷隆一氏を経て、国立民俗博物館と、当会が松崎さんから寄贈された4組である。4組のうち当会々員が収集されたものが3組を占めるとは、大いに誇りであり、苦勞して入手された先輩方のご努

力に改めて敬意を表したい。

私がこの本を何とか会の図書館に納めたいと思い始めたのは、藤島敏男さんにあるお話を聞きしただけである。藤島さんは麻布日ヶ窪にお住まいで、私の勤め先がある日本橋くらいまでは足を延ばされる。ある日散歩のついでに寄りになった藤島さんに、パリ駐在の折に集められた山の本を、戦災で失われ残念でしたと水とを向けたら、それより先輩方が集められた山岳会の全蔵書を戦災で失ったのが悔しい、図書室の復活は後輩の努めと思ひ慎さんや松方さんと共に図書室の充実に努めてきたが、戦前の偉容には程遠いとおっしゃった。そして、木暮さんから頂いたシュラギントワイトの本だけでも疎開しておけばよかった、あの本を何とか再び手に入れないと木暮さんに申し訳ないと話された。藤島さんは小暮さんと大正9年、人跡まれな平ヶ岳に湯檜曾か

ら大水上山を経て登るなど、幾つもの山行を共にしており、先輩木暮さんのご厚意を無にしたのを人一倍悔やんでおられるご様子が言葉のはしはしから伺えた。

私は100周年を迎えるにあたり、何とか藤島さんの悲願を実現したくこの数年海外の古書店の目録をチェックしていたが、売り物が全く出ない。そこで、ご協力頂けそうな会員がロンドンかニューヨークにいないか調べたら、1人もいないという結果が出た。日本企業の活動がいかに東南アジアにシフトしているか思い知らされ、

この作戦は空振りに終わった。ところが思いもかけず松崎さんのご厚意で、当会の蔵書にこの本が加えられ、夢見る思いである。これは藤島さんにご報告を考えたが、迂闊にお墓に近寄ったらたちまち藤島さんが現れ、君も随分殊勝なことをする様になったね、もうすぐこっちの仲間入りだね、などと言われかねない。山岳会を愛しておられた藤島さんのこと、今でも会報に目を通しておいでで、この記事も目にとまるだろう。君子危うきに近寄らず、お墓参りは止めておこう。

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの 家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店 アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデュをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。

あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。



お問い合わせ
お申込みは

アルプスウェイ

<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F

Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300

e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F

Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986

e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社フェロートラベル

協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援：スイス政府観光局

ALPS WAY.
We Love Swiss

報告

4月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

総務委員会

支部事務局担当者会議

2月19日、20日の2日間にわたり、支部事務局担当者会議が開催された。

19日の水道橋東京グリーンホテルでの会議は、事前に作成を依頼したアンケートにもとづいて、各支部の現状について報告があり、その後、各支部での入会資格について討論があった。各支部からの申告による支部員の総数は2916名と、日本山岳会の会員の半数を占めている。その他に会友制度を設けている支部が12支部あるが、会友の位置付けについては、それぞれに異なる。支部として独自に会費を徴収している支部は17支部である。それぞれの支部の現状、問題点を率直に述べていただいた

が、いずれの支部も、支部行事への参加者が限定されていること、会員の高齢化、新しく入会を希望する人が減少していることが問題点として指摘された。

しかしながら、定例山行の実施、自然保護活動や子供向け登山育成活動など、各支部ともに着実に日常の活動を続けている。

本会への入会資格については、支部毎に多少の違いがあるようだが、夜は懇親会を実施し活発な意見の交換があった。

翌20日は会場を本会の集会室に移し、本会からの依頼事項の伝達を行った。分水嶺踏査については、各支部の全面的な協力を得て順調に実施されており、ほぼ6割が踏査された感触を得た。

100周年記念事業実施のための会員募金の進捗について強要

請が募金委員会からなされた。山岳保険加入のすすめ、本会取扱グッズの紹介など、日頃支部の皆さん方に伝わりにくい事柄を担当者によく理解いただけたと思う。

(染谷 美佐子)

学生部

アイスクライミング講習会 八ヶ岳にて開催

2月9日から10日にかけて、学生部主催のアイスクライミング講習会が八ヶ岳にて行われた。

各大学間の交流・親睦をはかり、各レベルに合ったアイスクライミング技術の習得をすることを目的としたこの講習会には、関西学院大学、専修大学、東海大学、東京理科大学、(大)防衛大学、立教大学、早稲田大学、法政大学から計22名の参加者があった。松原尚之・岡田康・黒田誠各氏の講師にご指導いただいた。22名の参加者のうち、ほとんどが未経験者であ

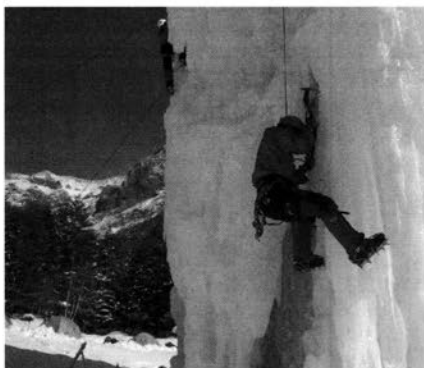
ったが、経験者も未経験者もそれぞれのレベルに合わせた講習を受けることができたと思う。

9日、10時、赤岳鉱泉に集合。講習会参加費3000円と、人工のアイスクライミング・ゲレンデであるアイスキャンデーの使用料500円を払う。

その後、経験者と未経験者に分かれ、アイスキャンデーにて15時まで、トップロープでとにかく数をこなす。1人10本近くも登ると、未経験者も経験者もバイルの振り方、アイゼンの置き方により進歩が見られるようになり、講師からのアドバイスもあつてコツをつかんできた。

夕食(各自)をはさんで19時から、鉱泉の食堂にて机上講習会と懇親会を行う。アイスクライミングに関する技術的な講習、講師による海外でのアイスクライミングのスライド上映や、南米やカナダの巨大な氷瀑のスライドを眺め、一同モチベーションが上がり、夢が膨らんだ。スライドを見た後、ビールで乾杯し、簡単な懇親会を行って21時にひとまず解散した。

10日、会場を南沢小滝・大滝に移す。8時30分に南沢小滝前に集



人工氷壁で悪戦苦闘中

合し、経験者と上級生は大滝にて、未経験者は小滝にて講習を行った。大滝では講師がリードし3本のトップロープを張り、1人1〜2本ずつ登ったが、今年の南沢大滝はよく発達しており、長さも50m近くあったためパンプする者続出であった。また、これだけの長さの氷瀑を登ったのは皆初めてで、大いに緊張したようだ。

小滝ではスクリューの打ち方やアバコフの作り方などを学び、実際にスクリューをさしながら登る練習も行った。昼に大滝班と小滝班を交代し、15時に講習会終了、解散した。

2日間にわたり、内容の濃い講習会であり、参加者の登りもかなりリズムミカルになった。今後もち

のような機会を設け、学生部の親睦をはかるとともに、技術の向上を目指していきたいと思う。

(東海大学 小松 由佳)

アルパインスケッチクラブ

第14回山好きの山の絵展

2月20日〜26日までの1週間、東京交通会館2階ギャラリーにて開催された。出展者55名、出展作品71展(水彩38点、油絵23点、パステル他10点)、スケッチブック11点の展示であった。

期間中は2161名の方々に来場いただき、誠に盛会であった。

初日、午前中は会場の設営である。会員たちは、1年間の努力の成果である作品を持ちより、指定の位置に展示、照明の調整や諸々の準備を整え、正午にオープン。開場を待ちかねた来場者が次々に入場、あつという間に、あちこちに山仲間の楽しい輪ができ、それぞれに会話がはずみ出す。

展示作品はヒマラヤの山あり、スイスの山あり、北アルプスや南アルプスの日本の山々、登って描いたスケッチや、じっくり眺めて描いた油絵など、それぞれが思い

をこめた力作が並ぶ。

読売新聞の取材もあり、2月23日の都内版に写真入りでこの展覧会のことや報道され、「新聞を見ました」と言う人たちも次々に来場された。

来場者の方々より「山の自然を愛する爽やかさが絵から感じられた」、「自然を大切にしなければと思う」、「また来年も来たい」などの感想をいただいた。

この事こそが、我々が山を愛し、山を絵筆に託して描き続け、自然の大切さを語りかけてきた初期の目的であり。絵の巧拙は別にして、大勢の方々に共感をいただけたこ



「第14回山好きの山の絵展」が終わって会員の記念撮影

とは、会員一同の大きな喜びであった。

この展覧会も会を重ねて、今回は14回展となった。スケッチクラブは会員数も増加しており、来年2月の15回展に向け、会員一同の更なる精進を願っている。

引き続き皆様のご鞭撻をお願いいたします。(高崎 辰箕)

訂正

3月(718)号6ページ4段最終行の村山裕は村山裕嗣、10ページ4段10行目神印は押印、漢詩7行目の泰山は秦山の誤りです。お詫びして訂正いたします。

日本山岳会創立100周年記念

河口慧海の足跡をたずねて

A) 国境の峠探訪とカイルス1周トレッキング 33日間
9/12(月)〜10/14(金) 785,000円

B) 秘境ムスタン・トレッキング 22日間
10/18(火)〜11/8(火) 645,000円

国土交通大臣登録旅行業第490号/出日本旅行業協会正会員 日本山岳会
アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

東 西 南 北



オオヒラウスユキソウ

イラスト・倉岡啓吉

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

年越しは山研で

辻橋 明子

今日は大晦日。
ガラス戸の向こうは深々と降りしきる雪と、ライトに照らしだされた雪景色。

薪ストーブの暖かな炎を見つめながら、私はロッキングチェアに揺られ、どこぞの寺の除夜の鐘を、テレビを通して聞いている。

ここはどこ? そう、ここは上高地山研である。

フロアでは、山岳会の仲間がワインなどを片手に、楽しい会話に花を咲かせている。

30年ほど前の冬、初めてこの地を訪ねたときは大変だった。トンネル入口の雪崩のデブリに怖じ気

づき、真つ暗なトンネルの凍ったツルツルの道や、天井から下がる不気味なツララをヘッドランプの明かりの先に見て身を竦め、やつのことで辿り着く河童橋だった。それだけに感動も大きく、静謐な中に清澄とした真つ白な装いのその景は心に残っていた。

そして、いつの頃からかこの地でお正月を、との思いが芽生えていたのである。

その残雪の上高地で撮影会などチャンスには恵まれたが、長年の夢を実現させるには至らなかった。3年前、『山』のインフォメーションにうれしい案内が出た。

メンテナンスのため山研委員が年末年始に入り、この期間「山研」をオープンするというもの。しかも2食付きだという! 早速

第25回 日本登山医学シンポジウム 開催のお知らせ 医療委員会

下記の要領で開催されますので、一般の登山者の方もふるってご参加ください。

- 会 期 5月21日(土)~22日(日)
- 会 場 国立大隅少年自然の家
- 費 用 宿泊・食事代込み
2泊6000円、1泊4000円
- テーマ 登山医学研究会発足25周年
—これからの方向性について考える—

●特別講演

高所登山とスポーツクライミングの最前線
近藤和美 (8000m峰6座の無酸素登頂を振り返って)
新井裕己 (科学的なトレーニング法と指導法)

●シンポジウム

研究会25周年—これまでの歩みと今後の課題
(中島道郎、山本正嘉、大森薫雄、野口いづみ、一般登山者からの要望)

*その他、鹿児島島の岩と沢のスライドショー、低酸素トレーニング施設見学、高隈山登山

事務局 鹿屋体育大学・スポーツトレーニング教育研究センター 山本正嘉
〒891-2393 鹿屋市白水町1 鹿屋体育大学
Tel&Fax: 0994-46-5033
✉: yamamoto@nifs-k.ac.jp

申し込んだ。

30年前と違って交通の便が良くなり、松本からは平湯方面に定期バスが出ていた。(釜トンネル入口下車) トンネル内には電灯が灯り、ほとんどアイゼンを必要としない。天気さえ良ければ2時間半ほどで河童橋に立てる。

山研での生活は、洗顔ができない、外の仮設トイレの使用方法をきちんと守る、近くの沢まで水汲みのアルバイトを1回はする、などのルールがある。しかし、山研

理事の小川、坂本両氏による采配のもと、本当に楽しく快適に過ごすことができた。

特筆すべきは、シェフ坂本が手を変え品を変えて、毎回供してくれる食事である。大晦日の年越しそばに始まり、元日のお雑煮、おせち、夕食の鍋料理など。これがすべて美味しい。

贅沢な年越しを3年連続楽しんでいる。

皆さんも、どうぞ今年の年越しは山研で…。

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野溪石

飯田年穂・近藤等・共訳

『ボナッティ わが生涯の山々』

ボナッティが彼の極限のクライムを2冊の著書にまとめて発表した『わが山々へ』と『大いなる山の日々』をその後全面改稿に着手し、推敲を加えて発表したものが本書である。

この日本版では、『わが山々へ』に収録されていた山行は近藤等氏が仏語版から新たに訳し、『大いなる山の日々』に収められていた山行に相当する部分と、その後のページは飯田年穂氏が新しく訳している。

ヴァルテル・ボナッティはアル

プスで登山史に輝く初登攀を立てつづけに成し遂げ、K2およびガッシャーブルムIV峰遠征のイタリヤ隊にも選ばれて、当時の登山界において第一級の目覚ましい活躍をしたあと、1965年、突如として登山の表舞台から姿を消してしまった。尖鋭的アルピニストはその後世界の辺境を訪ね歩く水平の冒険へと転進してしまう。

この書は、ヴァルテル・ボナッティ自身によって、挑戦する大いなる山々の姿とそれに向き合う心模様を、登攀という命をかけた行為を通して鮮烈に描き出したものである。彼の冒険に対する考え、アルピニズムについても随所で述べられ、垂直の世界から水平の世界への転身の経緯についても本書から読み取ることができる。

(渡邊 玉枝)
2003年4月 山と溪谷社発行
382ページ 2400円

『おれ にんげんたち』 デルスー・ウザラーはどこに

岡本 武司・著

黒澤映画を知らない世代にはなじみがないかもしれないが、ひと

昔前の登山、探検好きの人間なら一度はアルセニエフの「ウスリー紀行」を読み、文明の汚れを知らぬ現地人猟師デルスー・ウザラーの生き方に感動を受けたはずである。朝日新聞の記者だった筆者は定年後の2001年10月、ハバロフスクへ渡った。

その後、ウラジオストクの大学に留学、ロシア語を学びながらアルセニエフとデルスー・ウザラーの研究に打ち込んだ。

デルスーは実在したのかという素朴な疑問に始まり、その検証とデルスーを生んだウスリーの風土、

ロシア革命に巻き込まれたアルセニエフとその家族の壮絶な最後までを克明に取材した。書物、手記などはすべて原典にあたり、タイガに足をのびして関係者にインタビューを重ねた。

岡本は留学翌年に病に倒れ帰国、1ヵ月半後に他界した。残された遺稿の出版が彼の強い希望であった。かつての仲間が編集委員会を設け、それを実現させた。

タイトルの『おれ にんげんたち』は自然に生きるデルスー自身の叫びである。自然と文明の重要な関係はアルセニエフの活躍した

おれ にんげんたち

——デルスー・ウザラーはどこに——

黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて



探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウスリーのタイガにたずね、デルスー像の検証から、二人の友情、自然と人間のかかわりを豊富な資料を駆使した巧みな筆致で探究する。

岡本 武司 著
四六判 220頁 1,890円(税込)

カラコルム・ヒンズークシュ 登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ B全判地図13葉
宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・
雁部貞夫 共著 ・カタログを請求下さい



◎好評発売中!!

34,650円(税込)

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0095
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

20世紀初頭と少しも変わらない。むしろその関係は複雑かつ深刻化していると言えるだろう。その意味で、デルスー・ウザラーの問いかけは極めて現代的課題なのである。登山を通じて自然の問題に深くかかわっている登山家にとって、重い課題がつきつけられていると言えるかもしれない。

(四手井 靖彦)

2004年7月発行 207ページ
ナカニシヤ出版 1800円

Jonathan Neale・著

『Tigers of the Snow』

シエルパの登山史である。著者ジョナサン・ニールは英国在住の作家で少年期をインドで送った。学校の冬休みに選ばれてダージリンのヒマラヤ登山学校が冬季に開催していた少年向登山教室に参加して、若くたくましく信頼感あふれるシエルパの教官に接して憧れを持った。自身、登山家への道は選ばなかったが、後に旅行者としてヒマラヤの旅を続け、シエルパの村に住み込み、言語を習得し、ヒマラヤ登山史の空白を埋めるべく本書を著した。

創立100周年記念事業にご協力を

本著刊行の4年前に、優れた先行類書(根深誠・著『シエルパ』山と溪谷社)が出ている。ヒマラヤ黄金時代に活躍した生存者本人や関係者への聞き取りと、雇用者である欧米人登山家の著作を比較検証する手法も同じであり、聞き取り相手もアン・ツェリン以下大方は重複している。

構成は、根深の『シエルパ』がシエルパの個人史を中心にまとめられているのに対して、本著は1920年代のエヴェレスト隊に始まり、1953年のエヴェレスト初登攀に至るまでを、ほぼ年代順に追っている。この間登山はまるで未経験、未訓練の純朴な従者苦力であったダージリン・シエルパたちがいかなる試練を経て、後にヒマラヤン・タイガーと呼ばれ、エヴェレスト初登頂の主役を担うに至ったかが辿られている。かつて雇用者への批判をタブーとした老シエルパたちも時の流れ、時代の変遷を経て心情を吐露できる環境となったのだろう。根深の聞き取り時期との数年の差が現れ

たとも思える箇所もある。

1930年代のナンガ・パルバットへのドイツ隊に対する批判は手厳しい。最強の隊員2名が高所で下降に難渋するシエルパ3名を置き去りにしてスキーで逃げ下った瞬間が、それまでの父子的関係でもあった雇用者対従者の関係を変えたターニング・ポイントとなり、シエルパたちは山での困難な局面では自立して身を守り、リーダーシップさえ発揮していくことになったという。

さらなる変化は39年のK2米国籍で現れる。計画段階からシエルパが登頂隊員として組み込まれたのである。この流れは53年のエヴェレスト・ハント隊でのテンジン・ノルゲイの活躍となる。ハント隊でのテンジンは隊員とシエルパとの板ばさみの立場に苦しみながらもみごとに登頂を成し遂げた。巻末の注釈、引例、索引が完備されており、著者が根深の『シエルパ』を通読したとは思えないが、参考文献にはあげている。

(越田 和男)

1978年、同じ出版社から『コンサイス日本山名辞典』が出ている。今回の出版はそのコンセプトを受け継ぎながら「山名は地域文化の宝」とし、「山名由来」などの小論を加えて新しく編集したゆえに、あえて辞典ではなく、事典と称することにした由。「多くの方々が日本の山と親しみ、山

『三省堂 日本山名事典』

徳久球雄・石井光造・武内正・編

St. Martin's Press, New York
2002年 336ページ 26・95\$

憧れの青いケシを求め 高山植物が誇る 中国5000m峰へ			大姑娘山 (5025m) 登頂			10日間
出 発 日			代 金			入場無料 要予約
A) 6/28(火) B) 6/30(木) C) 7/1(金) D) 7/5(火) E) 7/8(金) F) 7/12(火) G) 7/15(金) H) 7/19(火) 4/14(木) 13:30~ I) 7/22(金) J) 7/26(火)			説明会&セミナー開催!!			
A,B) 298,000円 C) 320,000円 D,E,F) 325,000円 G,H,I,J) 336,000円						
山旅専門旅行社 アミューストラベル株式会社 〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階 TEL:03(5919)1188 FAX:03(5919)1189						

を理解することに役立つことを願
って編集した」と巻頭にある。

内容は2万5千図に載るすべての山と峠、さらに山脈や高原、登山の対象となるピークなど2万5000項目を収録し、山や峠には標高、異称、経度・緯度、地形図名などを明示する。「山名考」としてくくられたなかには前記「山名由来」のほかに「アイヌ語源の山」「雪形の山」「同名の山」「十二支の山」など。漢字山峠名を画数順に配列した索引が付く。

なお、こうした事典の類は実際に使う者それぞれにより、あるいは使う目的によって評価が異なることは言うを俟たない。これを手にしたとき、私はまず長年親しんだ奥多摩、秩父の山々の項に目を通してみたが、少し説明が足りないのではないかと思う箇所もあった。

しかし、横山という山が全国にどのくらいあるのかと興味をもったときには、この事典で手取り早く数えて重宝したのでから、事典の満足不足を一概にいうことは難しい。

(横山 厚夫)

2004年5月 三省堂発行
1213頁 5300円

会務報告

2月理事会

日時 2月9日18時30分～20時30分

場所 日本山岳会会議室

出席者 平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、大蔵、賛田、田村、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田、一力各監事、宮崎、鰐坂、西村、小倉(重)、重廣各常任評議員

【審議事項】

1 創立100周年記念事業委員会委員補充の件 平山

●竹内哲夫、田邊壽、村井龍一各氏に委員を委嘱したい。(承認)

2 2011号室と104号室等価交換の件 橋本

①211号室を返却する。

②等価交換した201号室を当分借用する。

③104号室を会議室にし現集會室を談話室とする案を検討する。

以上について次のごとく意見がだされた。

●104号室、201号室の㎡単価はいくらか。 内田

●先方の評価先(第一勧銀不動産部)によれば104号室49・51万円/㎡、201号室47・72万円/㎡となる 橋本

●JAC側の評価を別途とるべきである。 内田

●了解した。 橋本

●等価交換は10割以内で実施する。 橋本

●104号室を会議室とする案は事務局とはなれて具合が悪い。現集會室は比較的しつかりしており使い勝手が良いのをこわして新たに談話室にし、104号室の改装をするのは経費的にもつたない等意見があった。原案を作ってみてさらに検討することとした。

3 「早池峰国定公園計画改訂について」要望書提出の件 篠崎 (承認)

4 創立100周年記念総合式典について 藤本

①参加者会費 1万5千円

(年次晩餐会と同額)

②予算執行 370万円に押える。

③招待者

●海外はネパール、中国、パキスタン、インド山岳会およびJUAの各会長を20万円を限度に招待する。

その他の各国山岳会宛に招待状を出す。出席者の会費はJACで負担する。

●国内は別紙のごとく検討している。

なお、本日は報告にとどめ、お気付きの点は藤本まで連絡されたい。

5 海外登山基金助成登山隊承認の件 大蔵

次の2隊に80万円の助成をしたい。

●チームビッグウォール・代表 山野井泰史 総費用94万円、助成金50万円

●広島メイプルブリス登山隊2005・代表 名越實 総費用18

その他の各国山岳会宛に招待状を出す。出席者の会費はJACで負担する。



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック

(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
 大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
 名古屋/〒464-0807 名古屋千代田区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



0万円、助成金30万円 (承認)

6 長期目標検討委員会の提案について 平山

●左記のような提案については、できるところから実施することとしたい。

①理事、評議員は、それぞれ15名とし、監事は2名とする。

②会長1名、副会長は2名とするが、今回(2005年)のみ3名。

③会長、副会長以外の理事は、会長、副会長が候補者を評議員会に推薦する。

④理事と委員会は分離する。

⑤『山岳』『英文ジャーナル』編集と図書、資料は会長直轄とする。

⑥会員交流のサロンを設置する。

なお、定款の変更が必要な事項については1年先を目標とする。

●今後、理事会で協議し決定する。

7 その他

①自然保護全国集会の援助の件

篠崎

●10・12支部から全国集会に出席いただいているが、それ以上の参加はむずかしい。

●交通費の半額程度は補助したい。別途検討することとなった。

②五百城文哉展

JAC設立の年に英国山岳会が

五百城氏の絵(山や草花)を購入した経緯があり、本年7・8月に展覧会を東京ステーションギャラリーにて行う予定。(後援決定)

③平山会長

●総会までに募金の90%達成に目途をつけてほしい。

●退任する理事も100周年の各種委員会は続けて担当してほしい。

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され承認された。

1 会報『山』2月号の内容について 今村

①20年続いた「海外の山」の執筆者の江本さんに、この間の世界の山岳界の変化等を書いてもらう。

②3月号は100周年事業の進捗状況をまとめて報告する。

2 記念募金目標および責任者 藤本

●会員募金4500万円(3000円×3年) 藤本 細かく分析して各自にお願いする。

●有志募金(特別募金) 1000万円 橋本 1口1万円として

何口以上という形でお願いする。

●大学募金(関東) 500万円 竹内、神崎、メトロ会等(関西)

150万円 平林

●企業募金 2350万円 芳賀
合計 8500万円

3 「森林づくり」のための緊急アピール賛同者に会長名を入れる 篠崎

●提出先 林野庁

●概要 国、地方公共団体による森林整備の推進と併せ、民間ボランティアによる取組。「緑の募金」に森林づくりの推進など国民参加の下、社会全体で取りくんでいくことが重要。

4 医療シンポジウム「山での突然死を考える」好評のうちに終了(アンケート結果報告があった) 野口

5 3月5日にシンポジウム「河口慧海の道」が関西支部共催で開催される。 藤本

6 山岳保険代理店変更の件 藤本

別紙の如く変更となった。なお、今年には事故が少なく来年の割引率は5%向上する。

7 100周年記念シンポジウム開催の件 朴元

●これからの日本山岳会のあり方を考える(仮題)。過去の登山隊員に話を聞き、今後の日本山岳会のあり方を考える。予算は未定。

■会員異動(2月) 物故

宮崎豊喜(5074) 04・7・11
脇神昇(13198) 04・12・19
佐藤弥右衛門(6456) 05・1・31

退会 国学院大学山岳部(5416)

末松 誠(12225)

小池清澄(12358) 福井

三浦靖男(12638)

原田富弥(13303) 北海道

中井 滋(13439) 宮城

池部栄子(13472) 宮崎

岡崎 勤(13493)

終身会員 渡辺文明(5666)

猿投の森づくりの会からのお知らせ

東海支部では平山会長、阿部関西支部長、県の高官らを招き、昨年10月23日森開きのセレモニーを行った。04年11月から月2回の定例作業日を設けて活動をはじめ、広葉樹自然林の手入れはかなり進んできている。猿投の森づくりの会 橋村 一豊

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆「100周年記念・白神山地育林事業」のご案内

青森支部・フォーラム委員会共催

日程 6月24日(金)～26日(日)

募集 ①20名(現地集合・解散)

②40名(東京発・着)

交通 ①青森空港と弘前駅から送迎車を往復運行

②全行程チャーターバス

費用 ①1万8千円(宿泊費・バス代・懇親会費等)

②4万5千円(交通費・宿泊費・保険料・連絡費等)

申込 ①と②で申込先が違います。

①②とも5月13日までに、氏名・住所・電話・会員番号を明記し、ハガキ、FAXメールで申し込みください。

①須々田秀美宛

(〒0360103 南津軽郡平賀町本町北柳田96の

2、②tab03144@yahoo.co.jp)
②山崎浩子宛
(〒23610033 横浜市区東朝比奈1-65-3
☎04517828712)

◆「徳本峠越えとウェストン祭」

山研運営委員会・信濃支部

59回目を迎えたウェストン祭。

新緑の徳本峠から上高地に入り山研に1泊、翌日「碑前祭」に参加。

新会員の仲間創りを手助けします。

日程 6月4日(土)～5日(日)

費用 1万2千円(1泊2食、午餐費、記念品、傷害保険料を含む)

現地集合、解散

参加対象会員 平成16年度の新入会員および本会員の希望者

20名(新会員優先)

申込 5月15日までに住所、氏名、年齢、会員番号、電話を明記し、堀嘉余子宛(☎&☎0333036922)

◆探索山行のお知らせ「古代植物と四阿山登山」

科学委員会

期日 6月18日(土)～19日(日)

費用 1万8千円(往復バス)

*詳細は5月号に掲載いたします。

ルーム日誌 2月

1日 図書委員会

2日 アルパインスケッチクラブ

3日 会長・副会長会議

4日 山岳地理クラブ

5日 高尾の森実行委員会

6日 フォトビデオクラブ

7日 ルーム改装委員会

8日 総務委員会

9日 アルパインスケッチクラブ

10日 常務理事会 二火会

11日 アルパインスケッチクラブ

12日 理事会 つくも会 休山会

13日 山の自然学研究会

14日 山想倶楽部

15日 高尾の森実行委員会 01会

16日 アルパインスケッチクラブ

17日 山研運営委員会 事業委員会

18日 インターネット小委員会 九五会

19日 三水会

20日 科学委員会

21日 自然保護委員会

22日 SUN燦会

23日 支部事務局担当者会議

24日 資料・映像委員会

25日 アルパインスキークラブ

26日 自然保護委員会 00会

27日 100周年特別募金委員会

ゆきわり会
24日 土曜会 山遊会
25日 100周年フォーラム委員会 緑爽会
2月来室者654名

◆編集後記◆

●100周年事業の準備は、いよいよ佳境に入り、4月15日にはマナス登山隊が日本を出発。シニアの活躍結果を会報でお伝えしたいと期待しています。一方、国内の中央分水嶺踏査も各支部の協力で順調に進んでおり、5月5日のNHK第一ラジオの特番(13時30分～17時55分)の中でも取り上げられます。

●今月号の編集実務は資料委員会の奈良さんにお手伝い頂きました。

(今村千秋)

日本山岳会会報 山 719号

2005年(平成17年)4月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社